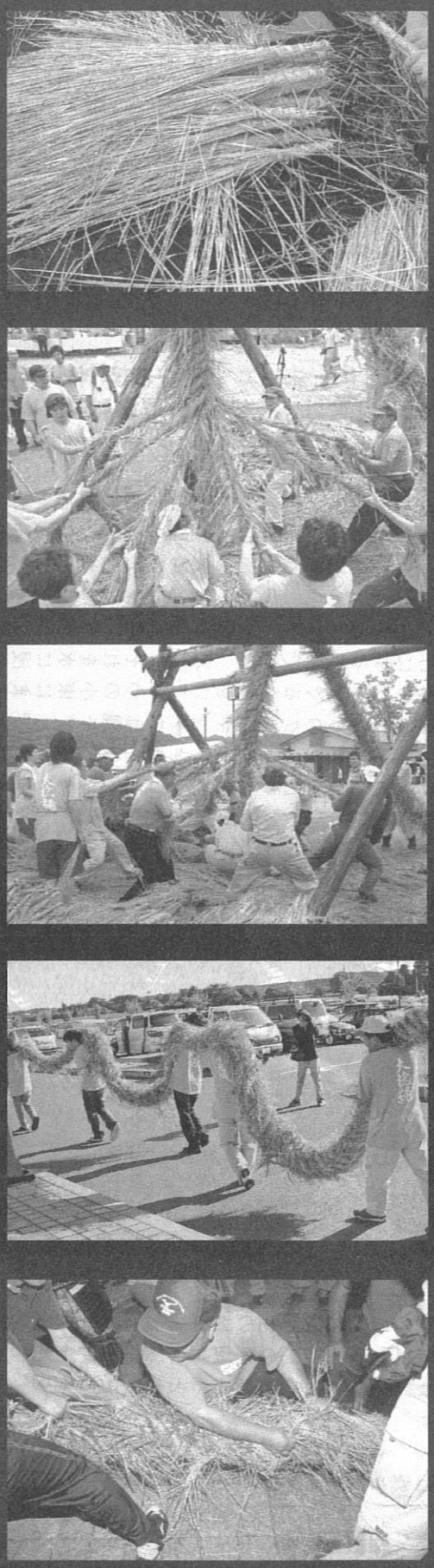
国選択無形民俗文化財



復活!!

大捻縄引き（だいもじひき）

未来に絆 縄引いて

8/19(土)

■主催 佐良土地区活性化協議会
大捻縄引き実行委員会
■後援 大田原市・大田原市教育委員会・
大田原市文化協会連絡協議会・大田原市観光協会
湯津上商工会・大田原商工会議所・黒羽商工会

■催事名：大捻縄引き ①大捻縄作り7:00～16:00 ②大捻縄引き18:00～21:00 雨天決行（荒天中止）
■場所地：大田原市佐良土地区特設会場・佐良土多目的交流センター付近

ARソフトを
ダウンロードしてください
このポスターを
読み取ると動画がみられます

iPhone は App Store から「COCOAR2」をインストール
Android は Google play から「COCOAR2」をインストール
[COCOAR2]

八月十四日

大捻縄引き

湯津上村大字佐良土

昭和四十一年　二月　十五日　湯津上村指定無形民俗文化財
昭和四十八年十一月二十七日　栃木県選択無形民俗文化財
昭和六十三年　六月　十五日　とちぎのまつり百選

あらまし

大捻縄引きは、湯津上村大字佐良土の仲宿・古宿・田宿の三地区で古くから伝承されている綱引き行事である。運動会で見られるような綱引きではなく、たくさんの稲ワラをよりあげてつくった直径五〇センチメートル、長さ五〇メートルを超える大縄を大勢の人たちで引き合う勇壮な行事である。

八月十四日早朝、事前に集められたワラで大縄づくりが始まる。まず、マンガ（馬鍬）を利用してワラスグリ。柔らかい葉の部分を落として、しっかりした茎の部分だけにする作業である。次に、それを水に浸して「ヒックビレ」づくり。ワラを三～四〇本の束にして、根本を数本のワラでぐるぐる巻いて一つの小束にまとめあげる作業で、主にお年寄りや子供、婦人が担当する。そして、大縄づくりのクライマックスは縄モジリ。ヤグラをかけたり、大木の又を利用して、十人以上の男たちがワラの小束を継ぎ足しながら、全身を使ってひねりを加え縄をなっていく作業である。これらの作業を通して大縄ができあがるのは日も西に傾くころとなる。できあがった大縄は、佐良土の宿内を抜ける道路の隅に寄せられ、時が来るのを待つ。

午後八時。大縄は道路の中央に運ばれ、綱引き開始の合図。村内外から集まった老若男女の見守る中、当番地区と残り二地区の対抗戦で綱引きが始まる。この綱引きに引き勝つと、その地区は豊作・家内安全・村内繁栄が約束されるとあって、引き合う様は真剣そのもの。佳境にはいると飛び入りも加わり、ますます熱気盛り上がる。

この行事に使用された縄は、八月二十七日に行われる大字佐良土の鎮守諏訪神社の奉納相撲の土俵として利用される。

小町和哉君（蛭畑）の作品

由来

その一　永正十七年（一五二〇）八月、白河城主の結城義永が一、五〇〇騎を率いて、烏山城主の那須資房を攻めた折、両軍は箒川沿岸の縄釣台（現小川町浄法寺）で激しい戦闘を繰り広げた。劣勢になった義永軍が太い縄をよりあげ、崖に下げて逃げようとするところを、資房軍がその縄を引き上げようとして両軍が縄を引き合ったのが始まり。

その二　八幡太郎義家が奥州征伐の折、この地に宿をとった時に始まった。

以上のような言い伝えは残されているが、確かな記録は残されていない。

民俗学上では

大捻縄引きは、豊作を祈願したり、祖霊の供養をする「盆綱引き」・「十五夜綱引き」の一種とみられる。これらの綱引きは日本各地に分布し、栃木県内でも南那須町八ケ代・喜連川町葛城・真岡市君島などでかつて行われていたが、現在そのほとんどが姿を消してしまっている。

守り伝えよう　ぼくの　わたしの　むらまつり

大字佐良土大捻縄引き保存会
湯津上村誇れるまちづくり委員会
湯津上村教育委員会